

# 日 本 史 探 究

**第1問** 次の文章を読み、( A ) ~ ( E ) に適切な語句を補え。また、  
下線部(1)から(5)までに関する各問いに答えよ。解答は、いずれも3ページの語群  
から適切なものを選んで記せ。なお、同じ記号には、同じ語句が入る。

平安時代中期の10世紀から11世紀半ば頃までの文化を一般に ( A ) と呼ぶ。時代や年号に由来するそれまでの文化の名称とは異なる一風変わった命名である。その背景には、唐の文化の模倣から、日本独自の文化の創造へという、いわば文化の和風化という認識があった。ちょうど<sup>(1)</sup>藤原氏による摂関政治が繰り広げられた時代であるので、藤原文化とも呼ぶ。

しかし、摂関政治の時代の文化は、けっして唐風文化の衰退のうえに形成されたのではなく、唐の文化を踏まえて、そこに創意工夫を施して発展させたものだった。894年に、( B ) の提案によって遣唐使派遣が停止されたあと、中国との正式な国交は途絶えたが、その後960年に中国を再統一した ( C ) の商人が北九州に来航するなどして、貿易はむしろ活発に行われるようになっていった。貴族社会において、中国からの輸入品は ( D ) と呼ばれてますます重宝されるようになる。

この時代の貴族の文化が中国文化の蓄積を前提にして成り立っていたことは、例えば、<sup>(2)</sup>「香炉峰の雪いかならむ」と中宮藤原定子にたずねられた清少納言が、御簾を上げて庭前の雪景色を定子に見せたという著名な逸話にもよく示されている。また、藤原道長が「この世をば我が世とぞ思う望月の欠けたることもなしと思えば」の歌を詠んで藤原実資に返歌を求めたのに対し、実資は白居易が元稹の詩を終日吟じた逸話を示して、道長の歌を唱和することを提案したという、『小右記』に見えるエピソードも同様であろう。

<sup>(3)</sup>書も漢字を優美な曲線で書く和様の書が生まれた。この時代に考え出された ( E ) も、その成り立ちの本を正せば、漢字の一部を省略したり、草書体をさらにくずしたりするなかで生まれたものである。院政期に入って貴族社会が転換期を迎えると、<sup>(4)</sup>貴族の全盛期だった摂関時代をなつかしむ歴史叙述も生まれ

た。それらは（ E ）によって書かれたものだった。

このように、摂関政治の時代の文化は、いわば<sup>(5)</sup>中国風のものと和風のものが併存・融合した文化なのである。

### 【設問】

問1 下線部(1)について、藤原氏が摂政や関白として天皇の政治を代行できたのは、天皇の生母の父や兄弟としての立場にあったからである。この立場を何と呼ぶか。

問2 下線部(2)について、この逸話を載せる清少納言が書いた文学作品の名称を答えよ。

問3 下線部(3)について、このような書を代表する小野道風・藤原佐理・藤原行成を、唐風の書を代表する書家と対比させて、何と呼ぶか。

問4 下線部(4)について、藤原道長の繁栄とそこに至る過程を描いた歴史物語の名称を答えよ。

問5 下線部(5)について、その代表的な文学作品の一つに、漢詩句と和歌を組み合わせ、編集した選集『和漢朗詠集』がある。その選者で、儀式書『北山抄』の作者でもあり、歌人としても著名な貴族はだれか。

**【語群】**

藤原公任	くずし字	絵巻物	東山文化	三筆
かな文字	今昔物語集	大江匡房	栄花物語	菅原孝標
内覧	明	大鏡	源氏物語	俵物
外戚	宇治拾遺物語	女院	三跡	慶滋保胤
三貨	蔵物	宋	藤原忠平	伊勢物語
元	菅原道真	弘仁・貞観文化	訓読	藤原道綱
北山文化	枕草子	隋	万葉がな	国風文化
土佐日記	外祖父	唐物	三蔵	藤原頼長

**第2問** 次の文章の空欄のア～コに入る適切な語句を下の語群から選び、記号で答えよ。

織田信長のあとをついで、天下統一を完成したのは羽柴秀吉である。(ア) 国にうまれた秀吉は、信長に仕えて、しだいに才能を発揮し、信長の重臣に出世した。秀吉は本能寺の変を知ると対戦中の(イ)氏と講和し、(ウ)年に(エ)国の山崎の合戦で明智光秀を討った。

その後、信長の重臣だった柴田勝家を(オ)国の賤ヶ岳の戦いで破り、寺内町として繁栄していた(カ)国の本願寺の跡地に壮大な大坂城を築きはじめた。ついで、(キ)年に秀吉は、(ア)国の小牧・長久手の戦いで(ク)および徳川家康とも戦ったが、講和した。(ケ)年には、秀吉は(コ)氏をくだして四国を平定するとともに、朝廷から関白に、翌年には豊臣の姓を与えられた。

**【語群】**

あ、長宗我部	い、1583	う、和泉	え、1584
お、織田信秀	か、摂津	き、三好	く、宇喜多
け、山城	こ、大和	さ、尾張	し、1582
す、1585	せ、三河	そ、織田信雄	た、1586
ち、島津	つ、毛利	て、1581	と、近江

**第3問** 次の文章は、大学教員 T と学生 A・B の会話である。これを読み、設問に答えよ。

T：1945年の第二次世界大戦の終結から数えて、2025年は「戦後80年」にあたります。明治以降の日本近現代史について語るとき、私たちは、第二次世界大戦終結を大きな区切りととらえ、「戦前」「戦後」という言葉を口にしたり、聞いたりしますよね。仮に、明治と改元された（ア）年から1945年までを「戦前」とするなら、1945年から2025年の今までの「戦後」のほうが長くなっています。

A：意識したことはなかったですが、そうですね。私の場合は高校生のおきから、どちらかといえば、「戦前」の歴史に知的好奇心を持ちはじめました。

T：ひとくちに「戦前」といっても長いけれど、Aさんは、特にいつの・どんな出来事や人物などについて学びを深めて探究してみたい？

A：1930年代における軍部の台頭、やがては、第二次世界大戦につながっていった日本の政治・外交と社会の動きです。たとえば、（イ）年9月18日、日本の関東軍が中国東北部の南満洲鉄道の線路を爆破した（ウ）事件、それをきっかけとした満洲事変。「どうして、こんなことが起こったのだろう」と思うことがいろいろあって、関心がつきすることはありません。

B：1921年11月から翌年2月にかけての（エ）会議で結ばれた諸条約で、日本は、戦争の発生防止や国際協調をめざしていたよね。この会議では、海軍軍備制限五カ国条約のほか、中国の主権尊重・領土保全などを約束した、中国に関する（オ）カ国条約も結んでいた。1920年代の国際協調・平和外交をになった人物といえば、外務大臣をつとめた（カ）が名高いよね。

A：そう。だからこそ、1930年代から40年代にかけて、「どうして、こんなことが」と思うことが多いんだよね。それに、政府や軍部だけでなく社会の側の動き、たとえば、マスメディアや国民大衆の反応といったことも、すごく気になるなあ。

T：AさんとBさんのお話の内容については、おおまかなことは、高校でも学ぶことになっていますね。でも、教科書ですべてが説明しつくされているわけ

ではないし、十分に明らかになっていないこともあるから、もっと深く探究できるでしょう。Bさんは、特にいつの・どんな出来事や人物などに知的好奇心があるかな？

B：「戦前」「戦後」という言葉でいえば、私は「戦後」のほうです。（カ）は、第二次世界大戦で日本が降伏したあと、連合国軍の占領下で内閣総理大臣（首相）になった一人です。（カ）内閣で外務大臣をつとめたあと、首相になった人物が（キ）でした。ある図書を読んで知ったのですが、（キ）は、（ク）年におこった日露戦争のあとに外務省に入り、外交官の道を歩みました。第二次世界大戦中は早期の和平・終戦をめざす工作をして、軍部ににらまれ、憲兵隊につかまってしまったとのこと。

A：そうだったんだ。一度やめたあと、ふたたび首相になったよね。1951年9月の（ケ）対日平和条約締結を果たし、独立回復後の1954年にかけて長期政権を築いたことは、とても有名だよ。

B：うん。「戦前」と同じく、ひとくちに「戦後」といっても長いです。なかでも、自分が特に学びを深めて探究したいのは、まさしく、1940年代後半から1950・60年代にかけての復興や国際社会への復帰についてです。

T：（キ）は、満洲事変がおこったときに駐イタリア大使を務めていて、そのあとに駐（コ）大使になっています。（キ）が、（カ）などのいろいろな人に書き送った数多くの書翰（書簡・手紙）が残されていて、いまでは書翰集として刊行されています。彼の書翰集をいっしょに読んでいきませんか。AさんとBさんが探究したいことの両方にピッタリの史料ですよ。

A・B：ぜひ、読んでみたいです。「戦前」も「戦後」も、両方の歴史をバランスよく、史料にもとづいて、学びを深めていけたらいいです。

**【設問】**

問1 空欄ア～ケに入る適切な語句を答えよ。ア・イ・クは西暦で、オは漢数字で答えよ。

問2 空欄コに入るのは、国名である。日本は、日露戦争がおこった年の2年前に、その国と同盟協約を結んでいる。この協約は、2度の改定をへて、(エ)会議のあとに廃棄されるにいたった。空欄コに入る適切な国名を答えよ。

**第4問** 次の文章を読み、空欄ア～コに入る適切な語句を9ページの語群から選び、記号で答えよ。

仏教の末法思想の影響もあり、撰関期には来世に極楽往生することを願い、現世の不安から逃れようとする浄土教の教えが広がった。浄土教は、その後の思想や文化にも大きな影響を与えることになる。

10世紀半ばには、「市聖」とも呼ばれた（ア）が京の市で浄土教を説き、恵心僧都とも呼ばれた源信が念仏の教えを説いた『（イ）』も広く読まれた。また、極楽往生をとげたと信じられた人の伝記を集めた『日本往生極楽記』も（ウ）によって書かれた。その後も往生伝は数多くつくられていく。

鎌倉時代には、阿弥陀仏の誓いを信じて念仏をとさえれば平等に極楽往生できるという専修念仏の教えを説いた（エ）が浄土宗の開祖と仰がれた。

（エ）の弟子のひとりであった（オ）は、煩惱の深い人間（悪人）こそが阿弥陀仏による救済の対象であるとする（カ）説を説いた。その教えは広まっていき、のちに浄土真宗（一向宗）と呼ばれる教団が形成された。

『歎異抄』は、（オ）の死後に弟子の（キ）が、（オ）の言行を書き記したもので、「善人なをもちて往生をとぐ、いはんや悪人をや」という有名な（オ）の言葉も、ここに書かれている。

また、同じ浄土教の流れのなかから、踊念仏によって多くの民衆に教えを広め、時宗をひらいた（ク）も現れた。

鎌倉時代には、仏師運慶の四男の仏師（ケ）の手で六波羅蜜寺の（ア）像も作成された。口元にある六体の小さな仏像が印象的な作品で、この時期の肖像彫刻を代表する作品である。

戦国時代になると、浄土真宗本願寺派の（コ）が、吉崎に坊舎を構え、御文を通した布教活動を進め、晩年には大坂（石山）に坊舎を建てた。

**【語群】**

あ、行基	い、大江匡房	う、選択本願念仏集	え、空也
お、快慶	か、往生要集	き、今昔物語集	く、他力本願
け、一遍	こ、慶滋保胤	さ、教如	し、親鸞
す、蓮如	せ、法然	そ、唯円	た、鎮護国家
ち、日蓮	つ、教行信証	て、悪人正機	と、康勝

このページは空白です。